

株主総会継続会 質疑応答要旨

2024年7月31日(水)開催の当社第96回定時株主総会 継続会における質疑応答の主な要旨は次のとおりです。

質 問	回 答
Zachry 社の Golden Pass LNG プロジェクト(GPX プロジェクト)離脱をどのように補うのか。	Zachry 社の担当していた建設部分については、太宗を CB & I 社(McDermott 社)が引き継ぐ。なお、当社もコミッショニングやスタートアップのエンジニアを派遣してサポートする。
Zachry 社が Chapter11を申請した経緯を教えてください。	当社の見解であるが、新型コロナウイルスの流行や地政学リスク等の不測の事態の発生等で Zachry 社が想定した以上の工事コストとなったためではないかと推測している。
GPX プロジェクトの損失計上の原因及び反省事項を次の案件へ繋ぐ方策を教えてください。	GPX プロジェクトは、JVパートナーの選定にあたり、財務状況及び大規模工事の管理/遂行能力の2つの確認が必ずしも十分ではなかったと反省している。再生計画期間中に、受注前の入口管理を強化してきているが、更に本プロジェクトでの発生事象を知見として整理した上で、顧客とのリスク分担も含めた入口管理を徹底的に強化して行く。
GPX プロジェクトにおいて生じた 370 億円の引当金を振り戻す方策について教えてください。	GPXプロジェクトは、3つの系列に分かれており、まずは第1系列、ついで、第2及び第3系列と2回に分けて契約交渉・更改がなされる予定である。この契約更改を通して、顧客と費用負担に関する交渉をしっかりと行い、2段階で引当金を振り戻していくことを目指していく。
自己資本比率低下を踏まえた信用を補完する方策を教えてください。	まずは GPX において 370 億円の引当を振り戻すことで一定程度の自己資本を回復できると考えている。銀行との関係では、メインバンクである三菱 UFJ 銀行からの劣後ローン 200 億円について、3年間の借換延長がなされるなどの支援を得ている。 また、顧客・取引先・JVパートナーに対し、今回計上した引当金の経緯及びそれを振り戻す予定であることを説明し、ご理解をいただいている。
Zachry 社がGPXプロジェクトに参加した経緯を教えてください。	GPXプロジェクトの前に米国で行ったプロジェクト(フリーポート LNG プロジェクト)を Zachry 社と共同遂行した際、非常に高いパフォーマンスであったこと、当時は財務状況に課題はないと判断したことから、同社が参加することになった。
過去の海外企業買収で赤字を計上したにも関わらず、DNX Ventures へ出資する理由について教えてください。	DNX Ventures へ出資は未来への投資であり、投資先の精査及び事前の十分な検討を行った上で実施している。過去の失敗を反省せずに投資したものではない。

IR活動が、一般株主に分かりにくいので是正してほしい。	本年2月の上方修正後、GPXプロジェクトの問題によって、決算発表延期、損失計上となった点は大変申し訳ないと考えている。事案の進展に基づき、適時適切なIRを心がけているが、ご指摘の点については真摯に受け止める。 IRの強化の前提として、コーポレートガバナンス・コードの要請に基づき、株価を意識し経営を行っている。第1四半期の決算発表も例年の日程から前倒しで発表するとともに、今期の業績見通しも合わせて発表した。今後もIR活動は一層力を入れていく。
三菱商事を大株主として持つ現状下で、ガバナンス機能が適切に発揮されているのか。	独立社外取締役は、本日から1名増の5名となり、かつ取締役会長と常勤監査等委員である取締役もガバナンスに専念する。独立社外取締役は一般株主の代表という目線で取締役会に参加している。今後もガバナンスを一層強化していく。
GPXプロジェクトにて締結していたランプサム契約(*)のやり方はすでに限界ではないか。 * あらかじめ合意した固定価格で工事を請け負う契約	当社では、物価変動に関する調整項目を設けることや、パートナーがプロジェクトを遂行できなくなった場合の顧客サポート等について、事前に顧客と議論し、許容できない条件の仕事は請け負わないという方針で進めたいと考えている。
新中期経営計画の発表時期はいつか。	新中期経営計画は、GPXプロジェクトの引当金に関する帰趨を反映する必要があるため、発表を見送っているが、年内には発表したいと考えている。
新中期経営計画に株主還元策を含めてほしい。	株主皆様からの要望は真摯に受け止めている。一方で、当社の体力が失われている現状であることから、今後、利益を積み上げていき、その上で、株主還元策を考えていきたい。

以上